

## 同じ条件で外に出たからこそ

今朝は迷いました。私が職員玄関を出た時に雨は降っていないなかったので、いつものように革靴を履きました。いや、待てよ……これから雨が降ってくるかもしれないなあ。長靴に履き替えるべきかな……。私の中に迷いが生まれしました。しばらく思案した私は、結局傘だけ持っていて、革靴のままいつもの場所へと向かいました。

数名の生徒が私の前を通り過ぎてからでした。ぽつぽつと雨が降り出し、やがて傘をさしていても、靴の中やズボンの裾（すそ）が、ぐっしょりしてしまうほどの激しさになりました。

引き返して長靴に履き替えてこようかとも思いましたが、ちょうどその時、天徳に住む小学生の二つの分団が私の方にやってきました。彼らにあいさつだけして履き替えに行こうと思った私は、あることに気付きました。

きれいな列を作り、傘をさして私の前を通って行った小学生の中には、すでにぐっしょりの靴を履いている子がいます。それに気付いた私は、こう思いました。

「この子たちはこれから歩いて土岐小に行くんだ。履き替えに行くなんて、この子たちに失礼だなあ。」

革靴を履いていたからそう思ったのかもありません。小学生と同じ条件で外に出たからこそ、小学生と同じ立場に立て、そう思えたのだと思います。長靴を履いていたら、そう思わなかったのかもしれませんが。

そうこうしていると、桜堂や鶴城など東の方から、雨の中、自転車やってくる生徒たちの姿が見えました。

「そうだ！この子たちの方が大変なはずだ。ヘルメットと合羽（かっぱ）を身に付け、長い時間雨の中を突っ切ってくる生徒たち。雨ばかりでなく、汗でぐっしょりしているだろうに……。」

私の前に、合羽に身を包み、顔に水滴を付けた2年生の＼＼君がやってきました。「（合羽の）中は濡れてない？」と私が尋ねると、彼はニコッと笑ってこう答えました。

「はい、濡れています！」

私は革靴のままよかったですと思いました。濡れて登校する生徒の大変さを、身をもって実感できた朝のひとつでした。

（七月二十七日 記）